

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第16回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

臨床口腔生理学から見た要介護・高齢者への 摂食嚥下リハビリテーション

舘村 卓 助教授

大阪大学大学院歯学研究科
高次脳口腔機能学講座
顎口腔機能治療学教室

平成18年7月28日(金) 17:00～
歯学部A1セミナー室(歯学部基礎棟1階)

抄録:救命率の向上の一方で「speech」と「摂食嚥下機能」の障害によって社会参加が妨げられている人は増加している。現在、摂食嚥下障害への取り組みは、成人-脳卒中モデル、小児-発達障害モデルで考える傾向があるが、増加の一途である遷延性意識障害例や認知症例、とくに施設利用者や在宅療養者には、新たな概念が必要と思われる。

歯科医学は、意識清明な健常者の歯科疾患をチェア上で治療することを目標にしてきたが、一方では、口腔機能の専門職にもかかわらず、要介護・高齢者の嚥下障害には十分には対応していなかった。臨床口腔生理学の視点にシフトすることで、医科も扱えない多様で複雑な嚥下障害に歯科から対応する概念を事例の紹介を通じて考えたい。

連絡先: 第16回モデレーター 小山 重人 (内線 8369)
研究推進企画室長 高田春比古 (内線 8305)
副研究科長 高橋 信博 (内線 8294)